

# 女性よ、エンパワーメントしよう

三宅高子

一九七五年に第一回世界女性会議がメキシコで開かれたニューヨークを耳にした時、遠いところで女性解放運動の鐘が鳴っている、それほど気にも留めないでいた。ところが、二回、三回と情報が入るにつれて、「男は仕事、女は家庭」といった伝統的な役割を変えようと国境を越えて取り組んでいる運動であること、平和・開発・平等の三つのスローガンの下に二一年に向けて女性の地位向上のため全世界の女性の手をつなごうという呼びかけであることと分かり、これは山形の女性にとっても身近な問題であると思った。

世界の女性と共通の悩みを語り、解決していく場である第四回世界女性会議が北京で開かれることになった時、その中のNGO会議に参加しようと思い、ニールフォーラム会員二十名とともに出席した。百九十九カ国から四万人を超える参加者があり、熱気あふれる大会であった。そして、二一年に向けた将来戦略「北京宣言」の行動綱領が採択された。「女性と健康」「女性に対する暴力」「女性の人權」「女性とメディア」「女児」など十二の重大問題領域が設定され、具体的な行動計画が提案され、各国代表が目標実現へ向けたスピーチを行った。日本代表は女性大臣がいないため、官房長官が女性へのコミットメント

を行ったが、女性の地位の低さの実態を世界に知らせただけであった。しかし、政府は推進本部を設置し、一九九六年に「男女共同参画二一年プラン」を決定したので、国際的な約束を果たしたと言えます。

現在、国会に提出されている「男女共同参画基本法」(仮称)策定に先立って、各界有識者へのアンケート調査と意見聴取があった。その中に「男女共同参画社会」についての知識を問う質問があった。それは、男女共同参画推進本部(本部長・内閣総理大臣)を設置し、男女が社会の対等な構成員として自らの意思によつて社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、ともに責任を担うべき社会を指している。

この質問に対する回答で、「知っている」と答えた人は自治体首長で七八%、行政官で七七%だったのに対し、意外にも女性有識者は三六%、企業経営者は二二%と半分にも満たない結果となった。男女平等問題に関心が薄いことの現われであり、啓発活動の必要性を強く感じたのだった。

「新やまがたひゅーまんらいふフォーラム」(略称・ニールフォーラム)は県が策定した

「新やまがた女性プラン」の目標達成を果たす実践団体として誕生した。事業は、三つの領域部会、四つの地区部会、特別部会の計八部会が核となって運営している。北京世界女性会議に出席した会員が中心となり、地域の課題を掘り起こし問題点を取り上げ、山形版の行動綱領を作ろうとプロジェクトチームを設置した。北京で燃えた会員の思い入れは激しく、ああでもない、こうでもない議論を戦わせながら、北京会議の行動綱領の精神を受け継ぐこと、地域の問題と自分自身の課題とを重ねること、男女共同参画社会を実現すること、という三つの基本的考えを中心に据えて作業に当たった。キーワードとして、「人権の尊重」「女性のエンパワーメント」を挙げた。

貧困、労働、環境、暴力、参画、メディア、教育、福祉の八領域に分け、課題、問題点を分析し、今後の取り組みが分かり易いものになるように努めた。男女共同参画の阻害要因となっている社会制度、慣行の見直し、意識の改革、男女雇用の機会均等と均等な待遇の確保、学習機会の充実、政策方針決定過程への女性の参画が拡大される要望を入れながら、行動綱領の県版報告書を四年がかりで作った。今年、平成十三年度にスタートする県の「女性プラン」の改定作業に入る年に当たるが、その作業で活用していただければ幸いです。能力を十分に発揮しエンパワーメントし、世界の女性と心を通わせ、平和・開発・平等の世界づくりに参画しよう。二一年には第五回世界女性会議がニューヨークで開かれる。「みんなが幸せな、社会のために」。女性よ!、エンパワーメントしよう。

(新やまがたひゅーまんらいふフォーラム代表)